

スリランカ豪雨災害に対する国際緊急援助隊（専門家チーム）の砂防技術者の活動について

災害・派遣の経緯

- 5月24日～5月26日にかけてスリランカ南西部（カルタラ、ラトナプラ）で記録的大雨が観測され、洪水や土砂崩れが発生。
- 死者213名、行方不明者77名、住宅の全壊2,967戸、一部損壊は19,250戸、避難者数15,687名（6月7日スリランカ政府発表）
- スリランカ外務省からの要請を受け、国際緊急援助隊（専門家チーム）を派遣。砂防部から長井隆幸大臣官房付、国総研土砂災害研究部から桜井巨室長を派遣（6月2日～11日）。

活動の概要

【訪問先】大統領府、災害管理省、灌漑水資源管理省等

【調査内容】ヘリ調査、現地調査

【活動等概要】

- カルタラ県Kalu川流域のKaithula地区において5月25日 8:30(日本時間11:30)からの24時間雨量553 mmを記録。（Kukuleダムサイト付近）
- スリランカ政府（P.B.Abeykoon大統領秘書官、Gamini Wijith Wijayamuni Zoysa灌漑水資源大臣、Anura Priyadarshana Yapa災害管理大臣等）に対し技術的な助言を実施。

<土砂災害対策>

二次災害防止に対する当面の対応として、簡易な雨量計等を用いた降雨量観測、亀裂の拡大に対する監視等の提言。中長期的な対応として、ハザードマップに崩壊土砂の到達範囲の追記、地区ごとに警戒基準雨量の設定等を提言。



カルタラ県Pahiyangala地区で発生した地すべり

現地調査の状況



大統領府において技術的な助言を実施